

野研びより

水生生物編 1号
野外生物生態調査研究部 水生生物班

2017年 11月



©YAKEN 2017

9月1日 清武川にて 津守康成

オイカワ (*Zacco platypus*)

コイ目 コイ科

体長 15 cmほど

分布 利根川水系と信濃川水系以西の本
州各地、四国の吉野川水系、九州
なお、琵琶湖産アユやゲンゴロウ
ブナに混じって各地に移植された
背景がある。

生息地 基本的にはある程度の綺麗な河
川の上流から中流域にかけて生息する
が、湖沼に生息する個体群も存在する。
成魚は開けて流れの速い瀬を好むが、稚
魚や幼魚は流れの緩やかな場を好む。

生態 昆虫や藻類などを食べる雑食性で
ある。夕方には水面に集まる昆虫をジャンプして捕食する様子が観察できる。初夏から秋の初めにかけてオスは左の図のように美しい婚姻色を示す。一方、メスと繁殖期以外のオス、未成熟の個体は白銀色が強く乗り、それなりに美しい。

利用 高水温に気を付け、泳ぎ回れるスペースがあれば水槽でも飼育可である。また、食べることもでき、特に天ぷらで食すと美味である。

流々を駆け 水面を舞うは 虹の魚

私が最初にオイカワにお目見えしたのは、小学校で見た図鑑の中であった。当初、こんな美しい魚が日本、それも近所の川にも泳いでいるとは考えもつかなかった。そしてすぐにその考えは払拭されることになった。ある日川を眺めていると、一瞬虹が駆けたように見えた。よく目を凝らすとそれはまさに婚姻色が見事にのったオイカワであった。あの時の光景は今でもしっかりと脳裏に焼き付いている。目も覚めるような緑—いや翡翠色と言ったほうがいいのか—と燃えるような緋色、そして淡く朱に染まり優雅に広がった背びれと尻びれ。川の外から見たにも関わらず、それらは強烈かつ鮮明に私に主張してきた。私はただただ、彼らの美しさに圧倒され、時も忘れて優雅な舞を眺めていた。

